

**令和元年度 久留米広域連携中枢都市圏
ビジョン懇談会 小分科会（産業振興ワーキング）
議事録**

(1) 日 時：令和元年8月26日（月）13：30～15：00

(2) 場 所： えるピア久留米 301、302 学習室

(3) 出席者： <ビジョン懇談会委員>7名

原文雄委員、黒沼清寿委員、諸岡佳紀委員、穴見英三委員、實藤俊彦委員、
高橋英二委員、前田浩之委員

<各ワーキンググループ職員> 13名

<事務局>4名

(4) 次第及び内容： 〔○…委員発言 ●…ワーキンググループ、事務局発言〕

1. 開会
事務局より挨拶。本日の会議の趣旨、進め方等について説明。 以下、進行は産業振興ワーキングリーダー。
2. 出席者紹介
3. 説明事項
テーマ「後継者不足、労働者不足について」 配布資料をもとに説明。
4. 意見交換
●まずは、ただ今の各市町の説明を聞かれて、質問や意見等についてお願いしたいと思います。
○農業は、雇車型農業で収斂(しゅうれん)栽培をやって、他産業並みの所得を目指しているのが現状であろうと思います。昔の集落機能の喪失も人手不足の一因と思っています。商業、工業と連携しながら育てなければと強く思っています。
○農業に携わっている者として、新規就農者が増えるのは非常に良いことですが、後継者は減っています。新規就農には手厚いサポートがありますが、親元就農には規模拡大をしたくとも条件が厳しいです。離農を防ぐことも重要なことで、親元就農にもサポートがあれば相乗効果が得られると思います。
○今、小郡市の農家を回り、いろんな話を聞かせてもらっていますが、どこの農家も人出不足で事業拡大ができないと仰っています。小郡市では外国人の方をかなり多く見受けます。外国人技能実習生の方を活用して、農業に携わってもらって、人手不足を解消しようとする動きも顕著だと感じています。
○伝統工芸に関して、連携中枢都市圏でも課題だと思います。具体的に聞いたのは藍胎漆器の後継者問題で、弟子になりたい人はいるが給料が払えないので断っているのが実態ということでした。それだけ生活できないわけで、先ほどの新規就農であれば助成があるが、後継者について伝統工芸も農業と同じくらいハンデを持った産業ではないかと思っていますので、そういう制度を設けても良いのではないかと思います。 もっと具体的に言うと、博多織では大学デベロップメントを創りまして人材育成をしています。結構、後継者が出てきています。このように、広域圏の中で人材育成の新たな仕組みを考えてい

<p>ただいたらどうかと思っています。また、人手不足に関して、課題がそれぞれの業種や規模によって違います。その辺を分析して、広域圏でどう産業を育成していくか、きっちり方向性を決めてやってもらえたらと思います。広域圏全体で取り組む共通項を見つけてビジョンに反映することが今回の目的ですか。それならビックデータを解析して、今後広域圏としての方向性や具体的な施策について考えていく必要があると思います。もっと広域的なデータがほしいと思います。</p>
<p>○久留米餅のものづくりに携わっています。大刀洗町の大堰校区に住んでいますが、まずは地域がどんなに楽しいかを子供たちや後継者に知らしめていくことが大事だと思います。</p> <p>行政の新規事業者への支援は目立ちますが、継承者に対しての、特に人材育成、ものになるまで時間がかかりますがその間の支援がなく、商工会のメンバーも事業は続けたいが後継者がいない。広域圏で大事なのは経営資源、資産であり、筑後川に見合った産業が昔はあったはずなので、これを復活させたらどうなるのか、その辺の分析を、圏域で一緒にやってみたらどうでしょうか。この圏域は、JA、事業者、行政がコラボしたらものすごく強い地域になるのではと思います。</p>
<p>○労働者不足について、おそらく人が減るのは止まらないと思っています。人手不足を解消するためには、女性、高齢者、外国人の活用しかなく、その中で一番有効と思われる外国人の活用を進めていくしかないと思っています。事業承継については、銀行も支援に力を入れてやっていますが、時間がかかります。自分が辞めることを前提に考えてあるので、危機感があまりないと感じています。また、待つのではなく、こちらから積極的に働きかけていかないと事業承継はなかなかうまくいかないと思っています。最後に新規就業者と既存事業者では行政支援が違うという点ですが、輸血は多いけど出血は止まっていない状況だと思います。まずは出血を止めることが重要と考えています。</p>
<p>○ハローワークの統計においても、求職者の減少、求人の増加、有効求人倍率は非常に高い水準で推移している状況です。国としては一億総活躍ということで、女性や高齢者の活用を推進しており、ハローワークも、求職者の掘り起こしに様々な取組みをしていくことになっています。ただ、5~10年先を見据えた時、それだけで足りるのか、やはり、人口を呼び込む人口流入、そして今後は、外国人が働きやすい環境づくりにも取り組んでいくことが必要だと考えます。</p>
<p>●それぞれご意見等いただきました。産業全体として持続的な発展をどう進めていくかが皆さんの意見の共通項だったように感じました。集落機能をしっかり再生させる、内の人材をいかに留めていくか、地域の楽しさをしっかり発信する、外国人の活用等ご意見をいただきました。中の人材、外から入れる人材、ふたつのバランスを取ることが重要で、そのための支援策について、新しい切り口で考えていく必要性を感じました。フィードバックしたいと思います。全体を通して、もう少し話を聞きたいというところがありましたらお願いします。</p>
<p>○圏域全体の経済成長の分野の中に、久留米は医療都市の強みを持っているわけですが、医療産業は入っていないのかお聞きしたい。産業として捉えていないのでしょうか。</p>
<p>●まず、ここの枠組みの中には医療産業の要素は入っていません。ただし、久留米市は医療機関の数は多く全国トップ。就労人数でも従事者数は非常に多い。そういう意味では産業として捉えることができると思います。ではなぜ入っていないのか。医療の世界は大きくは診療報酬、公費ベースの話に裏打ちされていることから、通常の産業とは区別して考えていたことがあります。今後は、医療費、健康づくりの視点から、これだけの医療集積があるのだから、地域づくりに取り込めていけるとと思っています。今度の計画の中にどう落とし込むかは検討の余地があると思っています。</p>
<p>○医療行為のことを言っているわけではありません。医療産業とは、医院や大学に医療器械や薬</p>

<p>を卸している卸産業が、久留米や周辺にいっぱいあります。それを産業として捉えどう考えるか。医療福祉分野として切り離すのではなく、産業としてどう捉えるか。広域で分析していただきたい。</p>
<p>●医療分野を産業として捉え、経済成長の部分にどんな形で活かしていけるのかという趣旨だと思います。データ分析を含め、今度の計画にどういう落とし込みができるのか。ご意見をいただきながら考えていきたいと思っています。他にありませんか。</p>
<p>●まとめてみますと、キーワードとして人材について、外だけでなく中の人材の育成・外国人の活用、施策としては圏域ベースでのデータ分析の必要性など、持続的な発展をしていくための取組みがあげられたかと思います。短い時間でしたが、ご意見をいただき、ありがとうございました。</p>
<p>5. その他</p>
<p>●ビジョン懇談会全体会は秋ごろ開催予定です。</p>
<p>6. 閉会</p>